

自己評価報告書(最終報告)

報告者

臨床心理士養成コース／今
田 雄三

■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが（平成24年8月28日）、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

1. 目標・計画

高度専門職業人としての教員の資質能力のうち、主として「子どもの心理的理解に基づく教師の対応力の向上」を目指した授業実践を以下のように展開する。

①授業内容：以下の3つを授業内容として盛り込む。

適切な子ども理解の前提として、学生自身の適切な自己理解を図るための授業実践を行う。
子どもの心理的理解の裏付けとなる、精神医学、精神保健学、および臨床心理学の知識の習得のための授業実践を行う。
習得した知識を実際のケースに応用するための事例検討を取り入れた授業実践を行う。

②授業方法：授業内容と連動して、以下のような授業法に関する工夫を行う。

学部授業「表現コミュニケーション基礎演習」「発達臨床アセスメント」および大学院修士課程授業「臨床心理査定演習Ⅰ」「臨床心理面接演習」「臨床心理学演習」において、自己が表現した題材を元にプレゼンテーション、ディスカッション、レポート作成、フィードバックなどを行い、自己理解につなげる。

大学院修士過程授業「精神医学研究」「学校精神保健学研究」において、児童理解のための専門的知識習得のための講義を行う。適宜テーマを与えて意見発表を行ったり、事例を紹介するなど興味を持って受講できるよう工夫を行う。

大学院修士過程授業「臨床心理基礎実習」「学校精神保健学演習」「臨床心理実習」において事例検討を行い、受講者に対して適切にフィードバックを行う。

③成績評価：以下の3点を、個々の授業の内容と方法に応じて適切なバランスで配分し評価を行う。

自己理解への取り組みの姿勢
必要な専門的知識の習得
専門的知識を適切に用いたケース理解

2. 点検・評価

① 授業内容

<1>前期授業「精神医学研究」「学校精神保健学研究」「臨床心理査定演習Ⅰ」、および後期授業「学校精神保健学演習」「臨床心理学演習」「表現コミュニケーション基礎演習」において、受講者の自己理解を促すための課題を適宜授業内で導入し受講生の自己理解を促した。

<2>前期授業「精神医学研究」「学校精神保健学研究」において、精神医学、精神保健学、および臨床心理学の知識の習得のための講義を行った。

<3>上記の<2>で習得した知識を実際のケースに応用するため、後期授業「学校精神保健学演習」において事例検討を取り入れた授業実践を行い実践力の向上を図った。

② 授業方法

<1>前期大学院修士課程授業「臨床心理査定演習Ⅰ」「臨床心理面接演習」、および後期学部授業「表現コミュニケーション基礎演習」「発達臨床アセスメント」、大学院授業「臨床心理学演習」において、自己が表現した題材を元にプレゼンテーション、ディスカッション、レポート作成、フィードバックなどを行うことを通して自己理解へつなげる授業展開を行った。

<2>前期においては、大学院修士過程授業「精神医学研究」「学校精神保健学研究」において、児童理解のための専門的知識習得のための講義で、適宜テーマを与えて意見発表を行ったり、事例を紹介するなど興味を持って受講できるよう工夫を導入した。

<3>通年科目である、大学院修士過程授業「臨床心理基礎実習」「臨床心理実習」で事例検討を行い、受講者に対して適切にフィードバックを行った。また後期授業「学校精神保健学演習」においても事例検討を行い、受講者全員の演習用紙への記載に対し、原則として毎回教員から個別にフィードバックを行って気づきを促した。

③ 成績評価

上記の<1><2><3>を加味した演習課題・レポートにより前期授業「精神医学研究」「学校精神保健学研究」、および後期の「学校精神保健学演習」の成績評価を実施した。なお後期の「学校精神保健学演習」においては、独自に作成した「自己評価シート」を用いて授業開始初期、中期、終了時に自己評価を行い、学習成果と今後の課題について受講者がふりかえる試みを導入した。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

(1) 授業を通して学校精神保健の実践力の醸成を図ることを目標とする。そのための具体的な方法論として、①授業には独自に作成した資料を用いる、②授業には視聴覚機器を活用することで受講生の興味を喚起し、理解を助ける、③授業には事例検討を取り入れる、④授業で身につけた知識を実際の場面で即応的に活用できるための演習をくり返し行う、⑤受講者が主体的に論点を構築していけるための工夫を行う、の5点を徹底して実施する。

(2) 臨床心理士を目指す大学院生、および児童生徒の精神保健の実践に取り組む現職教員が精神科医療の実践に触れ、体験を通して正しい知識を習得出来るように、地域の医療機関と連携し、精神科病院で一週間の短期見学実習の機会が得られるように努める。また毎週一回・継続して研修できる長期実習が行えるように努める。

2. 点検・評価

(1) 前期授業「精神医学研究」「学校精神保健学研究」において上記目標の①②③を、「臨床心理査定演習Ⅰ」において上記目標の①②を実施した。後期授業「学校精神保健学研究」においては、上記目標の①～⑤のすべてを、「臨床心理学演習」においては上記目標の①②③④を実施し、受講生に学校精神保健の実践力の向上を図った。

(2) 2013年8月と2014年3月に、3つの精神科病院で一週間の短期見学実習を実施し、参加者は計40名だった。また2012年4月から12月まで、4つの医療機関において、毎週一回の長期実習を実施し、参加者は計8名だった。

Ⅱ－2. 研究

1. 目標・計画

(1) 臨床心理士を目指す大学院生の養成における精神保健に関する知識の習得、事例研究、および描画法やコーラージュ法を用いた心理査定や心理面接技法の習得に関連した研究を行う。

(2) 2012年度においては、引き続き上記に関連したデータの収集を行うとともに、これまでの実践内容やデータの一部に基づき、学術誌または学内紀要論文への投稿を目指す。

2. 点検・評価

(1) 予定通り臨床心理士を目指す大学院生の養成における精神保健の知識の習得、事例研究、および描画法やコーラージュ法を用いた心理査定や心理面接技法の習得に関連した研究を継続中である。

(2) 引き続き描画法やコーラージュ法を用いた心理査定や心理面接技法の習得に関連したデータを収集している。なお今年度はコーラージュ療法の教育における活用に関する共著論文が学術誌に1件掲載され、臨床心理士を目指す大学院生の養成における精神保健の知識の習得における視聴覚教材の活用に関するテーマの単著論文が学内紀要に1件掲載された。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

大学院入試委員会委員として、大学院入試運営に関し誠実に取り組むと共に、本コースにおける大学院入試広報活動をコーディネートし、本コース所属の教員全員が情報を共有し、適切に業務分担しつつ、効率のかつ実効的な広報活動が行われるようにする。

2. 点検・評価

本コース内での大学院入試に係る業務に関してコーディネートを行った。特に大学院説明会、コース紹介パンフレット、予備校への広報については、大学院入試委員として中心的に業務を遂行した。こうした取り組みにより、2014年度の本コースへの入学予定者を定員を上回って確保することが出来た。

Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

- (1) 徳島県精神保健福祉協会教育研修委員会委員として、県民一般を対象とした精神保健に関する啓蒙活動を行う。
- (2) 徳島県立徳島学院の嘱託医として、児童生徒の指導に関して教職員との連携を図る。
- (3) 徳島県学校問題解チーム派遣援事業スクールプロフェッサーの委託に応じ、教員・保護者・児童生徒に対し適切な助言・指導を行う。
- (4) 徳島県中央こども女性相談センターの嘱託医として、医学的な判定と助言を行う。
- (5) 日本コラージュ療法学会の常任理事として学会の運営に当たり、コラージュ療法の普及と学術的な発展に寄与する。

2. 点検・評価

- (1) 徳島県精神保健福祉協会教育研修委員会委員として、2013年11月に薬物依存をテーマに、また2014年2月に高齢者の心身の健康保持増進をテーマに、県民一般を対象とした精神保健に関する講演会を実施した。
- (2) 徳島県立徳島学院の嘱託医として、毎月1回児童生徒と面接を行い、指導に関して教職員との連携を行った。
- (3) 徳島県学校問題解チーム派遣援事業スクールプロフェッサーの委託を受け、教員・保護者・児童生徒に対し適切な助言・指導を行った。今年度の対応件数は1件だった。
- (4) 徳島県中央こども女性相談センターの嘱託医として、毎月1回療育手帳交付に関する医学的な判定と助言を行った。
- (5) 日本コラージュ療法学会の常任理事として2013年5、7、10月および2014年2月に開催された常任理事会に参加し学会の運営に当たった。また2013年10月5-6日、新潟青陵大学において開催された日本コラージュ療法学会第6回大会において一般演題の指定討論者をつとめた。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

教育に関して、課題研究Ⅰ(1年次)6名、課題研究Ⅱ(2年次)6名の大学院生のゼミ指導を担当したのに加え、本学の心理教育相談室で面接を担当する大学院生を対象とした面接指導基礎実習(1年次)5名、および面接指導実習(2年次)6名に対しても、課題研究に匹敵する綿密な指導を原則として毎週、グループおよび個別に実施し、高度な実践的資質を有する大学院生の養成に貢献した。